

**平成 25 年度やんばる観光連携推進事業
実施報告書**

【概要版】

**平成 26 年 3 月
北部広域市町村圏事務組合**

目次

序章 事業の概要.....	1
1. 事業の背景.....	1
2. 事業の目的.....	1
第1章 観光情報の収集・共有の仕組みづくり.....	3
1 - 1. エリアコーディネーターの配置.....	3
1 - 2. エリアワークショップの開催.....	3
1 - 3. 地域情報の収集・共有の仕組みづくり.....	7
第2章 情報配信モデルの実証.....	8
2 - 1. 情報サイトの制作.....	8
2 - 2. 情報拠点の設置.....	8
第3章 観光キャラバン.....	12
3 - 1. 「沖縄観光&MICEコンテンツフェア」への出展.....	12
3 - 2. アンケート調査.....	14
第4章 アンケート調査.....	15
4 - 1. 地域住民の意識調査.....	15
4 - 2. 観光客の意識調査.....	17
第5章 とりまとめ.....	19
5 - 1. WG・懇談会・連絡会・協議会の整理.....	19
5 - 2. 今後の推進方策と事業展開の方向性.....	22
5 - 3. 将来目標と事業展開イメージ.....	25
5 - 4. 平成26年度の業務内容（案）.....	27
平成25年度 委員名簿.....	28



北部広域市町村圏事務組合 構成市町村

序章 事業の概要

1. 事業の背景

やんばる地域は、豊かな自然環境と歴史文化に育まれた多くの観光資源を有している。まず恩納村から名護市に至る西海岸には沖縄観光のリゾートイメージを印象づける大型リゾート施設が群立している。本部町内には沖縄観光の目玉となっている「美ら海水族館」が立地し、年間 300 万人以上の観光客が訪れている。また、全国に先駆けて「桜まつり」が開催される地域でもあり、冬場の温暖な気候の下でプロ野球キャンプも定着している。さらに九州沖縄サミット開催の経験や沖縄科学技術大学院大学の立地など MICE 開催地としての要素も有するなど、今後も観光振興の可能性を秘めた地域である。

一方で、やんばる地域では観光客の周遊・滞在・消費を促進することが課題とされており、平成 24 年度より「やんばる観光連携推進事業」を実施して、市町村の副長で構成する「協議会」や有識者等で構成する「懇談会」、やんばる観光の重要な5つのテーマ(①交通・サイン②イベント・観光PR③花と緑④スポーツ・コンベンション⑤観光人材育成)毎の「ワーキング・グループ会議(以下『WG』とする)」を開催し、やんばる観光の課題や方向性に関する議論を進めてきた。

各会議では、市町村間で情報の共有が不十分で、相互の紹介やPRが困難な状況にあることや、『やんばる』のイメージが共有されておらず、プロモーション力が弱いことなどの課題が整理された。

これに対し、連携を進めるには、まず情報交換の場の設定や情報の集約、共有化、さらには情報発信を共同で行っていくことなどが必要とされた。

また、連携施策を推進していくためには、やんばるのイメージの共有や共通テーマを設けること、関係機関や地域のコンセンサスを得ていくことなど、広域連携の実行性を実証する必要性があげられた。

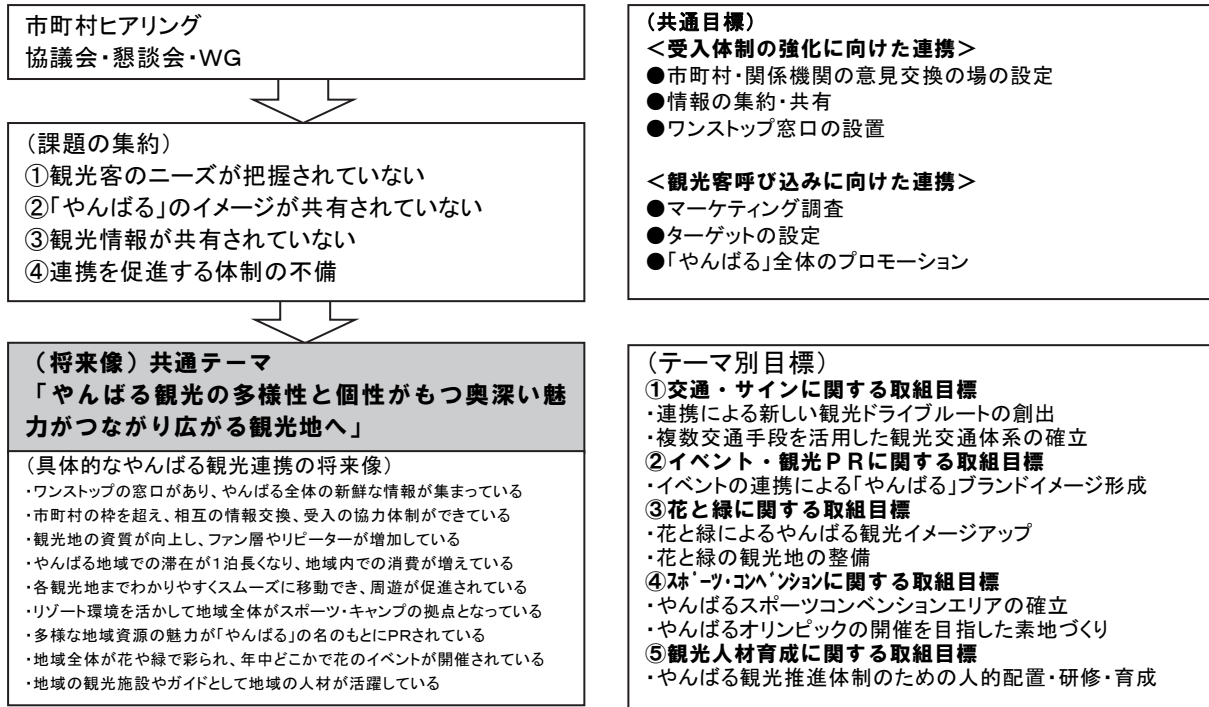
2. 事業の目的

平成 25 年度は、やんばる観光連携の仕組みや体制の構築を目的に、「受入体制の強化に向けた連携施策」として、観光情報の収集・共有の仕組み実証(エリアコーディネーター配置による観光素材の収集と更新の仕組みづくり等)、さらに「観光客増大に向けた連携施策」として、やんばる情報配信モデルの実証(観光情報サイト構築・情報拠点へのコーディネーター配置)、観光キャラバン(観光フェア出展等)、やんばるのイメージや観光ニーズを把握するためのアンケート調査などを実施する。

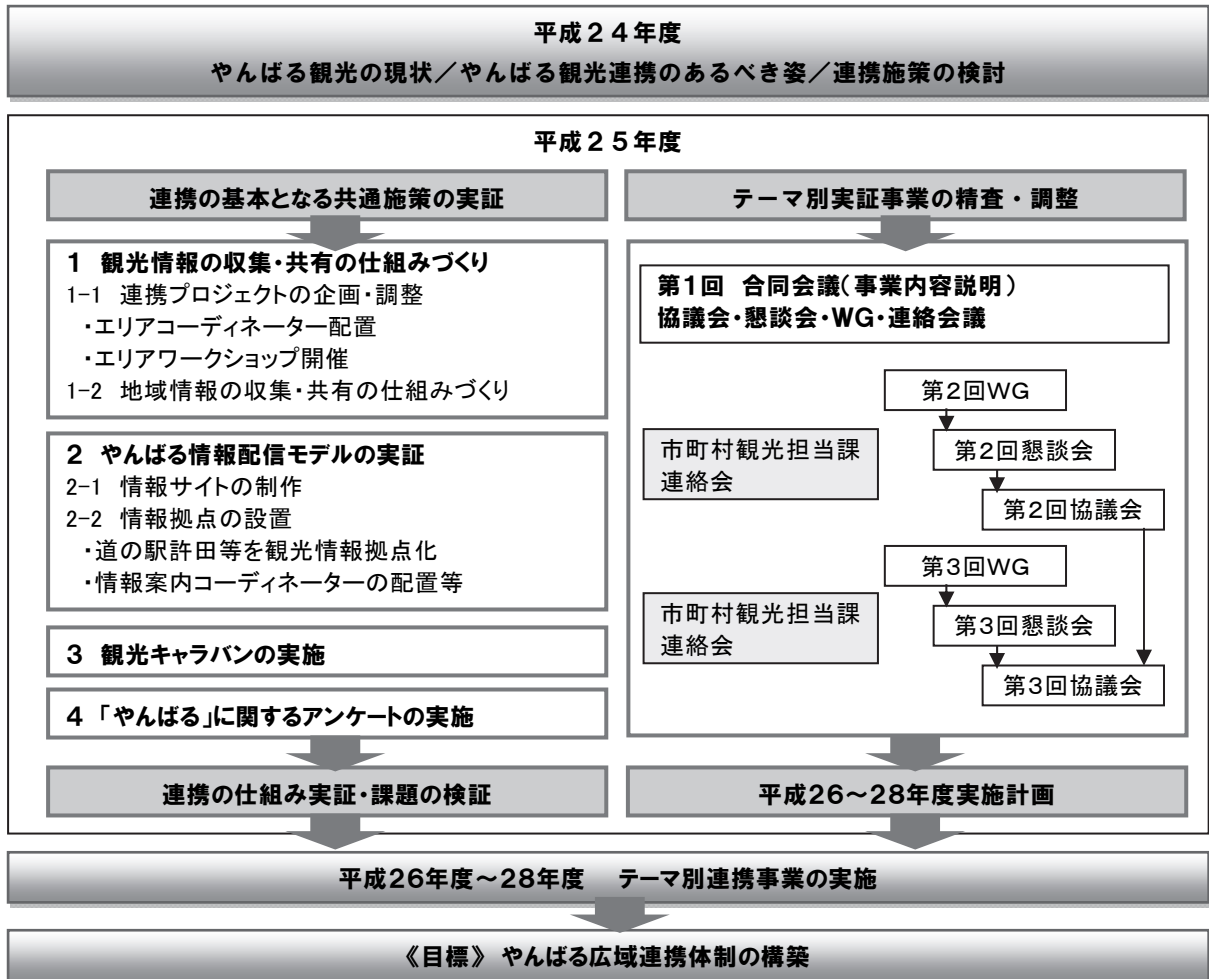
なお、これらの事業を進めるに当たっては前年度に引き続き協議会、懇談会、WG を開催し、平成 25 年度事業の進捗管理や平成 26 年度以降の実証事業案を策定する。

さらに、市町村観光情報の提供、広域連携事業の協力、市町村内の観光関連事業者等の紹介など市町村間の連携を密にする事を目的に、「市町村観光担当課連絡会」を新たに設置し事業内容の共有化を図る。

【平成 24 年度の概要】



【平成 25 年度の概要】



第1章 観光情報の収集・共有の仕組みづくり

1-1. エリアコーディネーターの配置

やんばる地域を3つのエリア※に区分し、各エリアに担当コーディネーターを配置した。

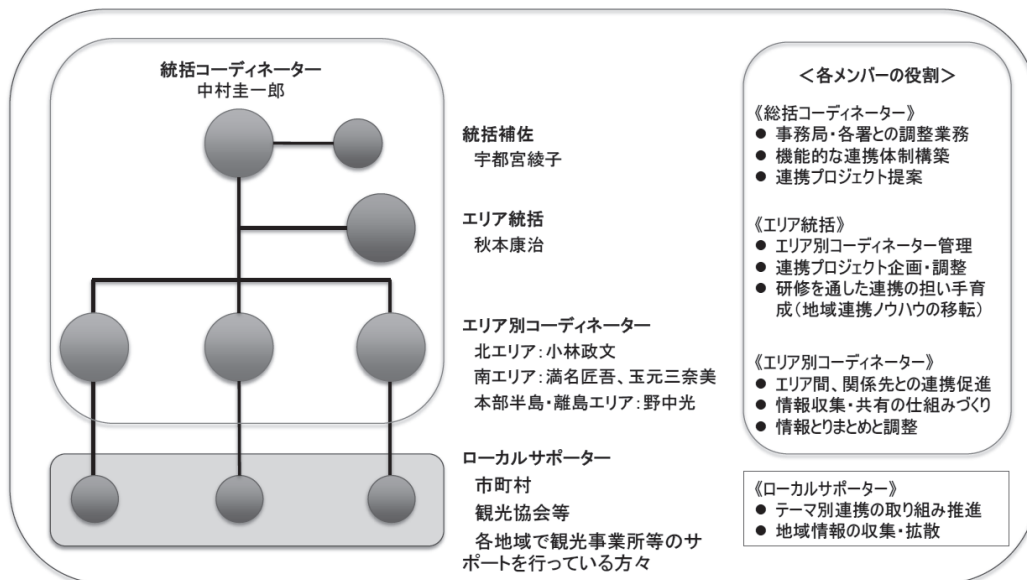
各エリアコーディネーターは地域内連携の推進や、地域情報の収集・拡散の仕組みづくりを遂行し、ローカルサポーター（観光行政や観光協会等の各地域で事業所等のサポートを行っている方々）とのネットワーク構築を図った。また、エリア統括はそれらの取りまとめと連携プロジェクトの企画・調整と担い手の育成など機能的な連携体制の構築に取り組んだ。

※：北エリア（国頭村、東村、大宜味村、名護市）

本部半島・離島エリア（今帰仁村、本部町、伊江村、伊是名村、伊平屋村、名護市）

南エリア（恩納村、金武町、宜野座村、名護市）

図 エリアコーディネーター体制図



1-2. エリアワークショップの開催

連携プロジェクトの企画・立案にあたり、関係者を集めた「エリア別連携会議」及び「ワークショップ」を開催した。

ワークショップでは、連携プロジェクトのアイデアを創出するため、連携のメリット・デメリットや連携意識の共有と具体的な連携イメージの創出に取り組み、出されたアイデアについて、事業化の可能性を加味しながら4つのテーマに整理した。

連携プロジェクトの企画立案をとおして、コーディネートに関するノウハウを移転し、連携の担い手となる地域リーダーの発掘を図った。

<開催実績>

①第1回ワークショップ

a. 第1回 北エリアワークショップ実施概要

日時：平成25年10月28日（月）9：00～11：30

会場：大保ダムぶながや館

b. 第1回 本部半島・離島エリアワークショップ実施概要

日時：平成25年10月28日（月）14：00～17：00

会場：今帰仁村コミュニティセンター ホール

c. 第1回 南エリアワークショップ実施概要

日時：平成25年10月31日（木）9：00～12：00

会場：金武町役場3階会議室

②第2回エリアワークショップ実施概要

日時：平成25年12月11日（水）15：30～18：30

会場：北部会館3階 会議室（名護市宇茂佐の森5-2-7）

③第3回エリアワークショップ実施概要

日時：平成26年2月4日（火）14：00～17：00

会場：北部会館3階 会議室（名護市宇茂佐の森5-2-7）

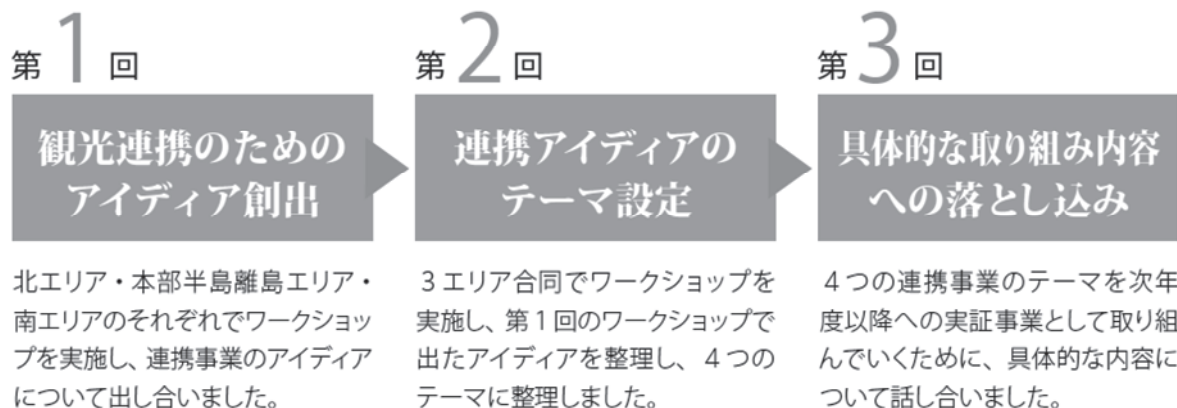
実施風景



事業進捗報告



玉沖仁美氏によるアドバイス



④事業を通じて抽出された4つの連携事業テーマ

やんばる散策プロジェクト

【プロジェクトの目的・モデル性】

- ・地域づくりのソリューションとして観光ができることのモデル化
- ・地元の人が地域をパトロールし、それに観光客が同行するという仕組みづくり
- ・地域資源を活用するにあたっての、ルールづくり

【実証に取り組むエリア】

- ・北エリア(国頭村・大宜味村・東村)

地域資源の活用について、集落散策マップを作る等既実践が進んでいる

【具体的取組案】

- 1 モニターツアーの実施
- 2 地域保全「まち歩き・さと歩き」、「冊子づくり」

【実施にあたってのポイント】

プロセスから地域の人に参加していく／豊年祭:コーディネーター(調整)→地域のガイド／地域のコーディネーターにお金が落ちる仕組みをつくる／まちまーいと連携した誘客／観光客の満足度やいくらお金を落としていったかを指標としていく／林道パトロールとの連携

エコ&スポーツプロジェクト

【プロジェクトの目的・モデル性】

- ・やんばるの自然資源はエコ&スポーツで活用できるポテンシャルが高いが、持続的に資源を活用して行くためのルール作りや、エリアで連携した受け入れ体制構築にまだまだ課題がある。

【実証事業に取り組むエリア】

- ・東海岸エリア

東海岸は西海岸に比べると訪れる観光客が少なく、どう東海岸に誘客するかが課題であるが、その一方で開発されずに残っている豊かな自然資源が豊富である。

東海岸では、そのポテンシャルを活用したエコ&スポーツをテーマにした施設・観光がうまれてきている。

【具体的取組案】

- 1 自然を活かしたツーリズムの連携
- 2 市町村主体で取り組んでいる事業の連携・推進
- 3 受け入れノウハウの蓄積・強化
- 4 資源を活用し持続可能な観光地域づくりを行っていくためのルール・協定作り
- 5 フィールドの持つポテンシャルの検討

【実施していくにあたってのポイント】

地域の経済効果を考える／アウトドア&スポーツに活用しやすい地域を目指す／各地域の大会をシリーズ化／広域での管理組合をつくり、活用のためルール作りを行う

地域密着型 MICE 誘致プロジェクト

【プロジェクトの目的・モデル性】

・特定のターゲットに対してのプログラムを構築し、訴求する観光の形として、民泊を活用した修学旅行の受け入れは各エリアで行われているが、その団体受け入れノウハウを、企業研修・インセンティブ旅行・イベント・エキシビジョン・CSR 等の受け入れに活用するモデルを構築する。

【実証に取り組むエリア】

・本部半島離島エリア

離島を含むエリアのアクセスの多様性を活かす

チームビルディングのしやすい環境

団体受け入れの実績・ノウハウがある

【具体的取組案】

1. 開発するサービス一覧(例) ※10～100名規模の団体客誘客施策

(1) 企業研修・社員旅行(福利厚生)受入プログラム

(2) MICE アフターコンベンション誘致

(3) 島好き自然派女子(島ガール)誘客プログラム

2. 営業ツール制作

(1). パンフレット (2). WEB 配信用素材 ※エリアの各町村観光 HP にページを追加

3. 受入対応体制強化 (各地域の民泊事業の質の向上にも繋げる)

(1). 人材育成 (2). 事業で培うノウハウ・マニュアルの資料化・共有化

【実施に向けてのポイント】

旅行会社とタイアップして団体営業を行っていく／MICE の中でも農業・環境・海洋系といったテーマや、CSR や教育的な要素も含めたインセンティブ旅行等にターゲットを絞っていったほうがいいのではないかとホスピタリティ

食の連携プロジェクト

【プロジェクトの目的・モデル性】

・地域の食材に対して、どこで手に入るかわからない等認知度が低い

・生産者・消費者・地域住民のつながりを

・観光・誘客に地域の食の魅力を活かしきれていない

【実証に取り組むエリア】

・北部 12 市町村全域

やんばるの外と中を食でつなぐ＝ファンづくりのモデルとして、食にスポットを当て、エリアのブランディングを行う

【具体的事業案】

1 ワーキンググループを組織

2 食の現場のフィールドワーク 生産者 × “地域の食の関係者”

3 食の市場 生産者 × 消費者・観光客

4 県外・海外で食の PR 現場 × 県外・海外

【実施に向けたポイント】

地域にいる食のプロデュースチームと連携して、やんばるの食をプロデュースするチームをつくり、地域の産業を育てる／飲食店・レストランとの連携／食×体験、食×交流／やんばるのおみやげ すぐりむんとの連携

1-3. 地域情報の収集・共有の仕組みづくり

①情報サイトへの投稿

地域のPR情報について「2 やんばる情報配信モデルの実証」の情報サイトの制作と連動し、地域の旬な情報を収集し、発信する仕組みを制作した。

図 情報サイトと連動した記事投稿の仕組み



②やんばるまんまるキャンペーンの実施

情報配信モデルの実証と連動しながら、情報収集・共有の仕組みづくりの一つとして、やんばるの魅力を発信するキャンペーンを実施した。

期間：2014年3月1日(土)から9日(日)まで

賞品：各エリアの特産品を“まんまる賞”として参加者にプレゼント。

<キャンペーン結果>

投稿写真数：110枚 (Facebook・twitter・HP投稿の合計)

③各地域の観光従事者へのインタビュー実施 冊子の編集・制作

各エリアの観光に携わる方々に対し「どんな想いでその地域に暮らし、その地域で業を営んでいるか」インタビューを実施し、小冊子にまとめた。

タイトル：やんばるつながる～「やんばる観光連携体制づくり」のための取り組み紹介～

仕様：A4 8ページ

発行部数：500部

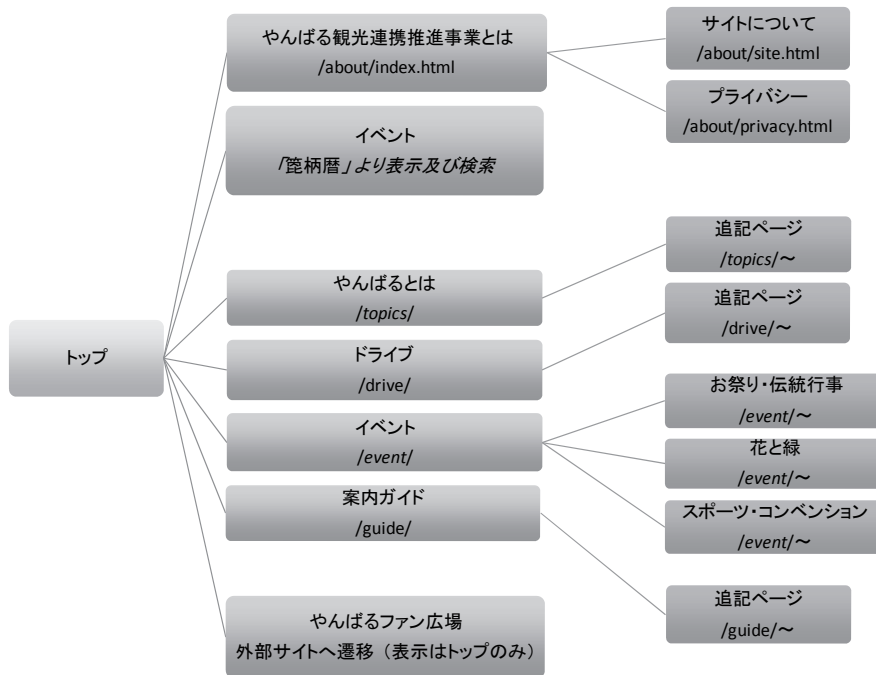
第2章 情報配信モデルの実証

2-1. 情報サイトの制作

情報サイトは、発地側への観光情報の提供として設置したものである。やんばる地域では、これまでも観光地や観光施設情報を掲載した多くの観光ポータルサイトが作られていることから、今回は、現地の旬な情報、リアルタイムの情報提供、双方向コミュニケーションを目的として制作した。

名称：「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」

図 サイトマップ



2-2. 情報拠点の設置

情報拠点は、着地側での観光情報の提供を目的として、やんばる地域内に1箇所、沖縄の玄関口である那覇周辺に1箇所設置した。情報拠点では大型マップを設置するとともに、各種観光パンフレットを収集し陳列した。また、案内ガイドを配置し対面による観光客ニーズの把握と案内誘導を試みた。

①観光パンフレットの収集・陳列

市町村及の発行する観光関連パンフレット、チラシをはじめ、情報媒体を陳列した。

②最新情報の収集

イベント、キャンペーン、その他北部12市町村で行われる催しを収集し、掲示した。

③案内ガイドの配置

観光情報を案内する人を一定期間配置した。

図 情報配信モデルの実証イメージ



図 沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト



写真 情報拠点 設置状況写真 道の駅許田 道路情報ターミナル やんばる観光案内コーナー



入口看板による案内



入口正面にやんばるマップを配置(270×300)

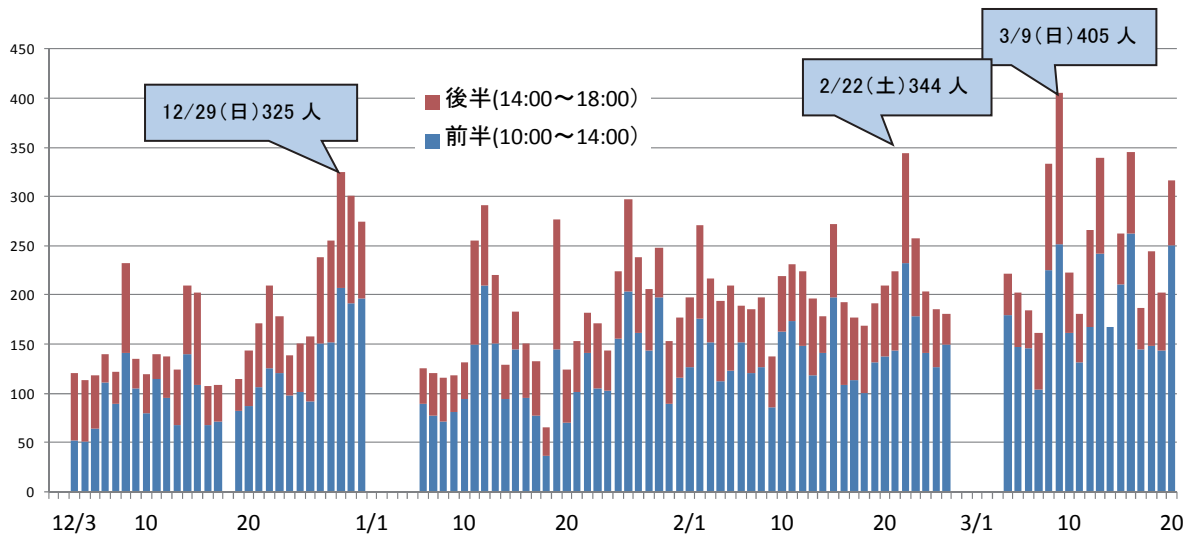


マップで距離や時間などの情報を提供



観葉植物による山・森のイメージ演出

図 来場者実績 (道の駅許田 道路情報ターミナル やんばる観光案内コーナー)



※来場者のカウントは、道路情報ターミナルに入った人のうち、観光情報の閲覧、パンフレット取得など何らかの観光情報を得た人数をカウントしている。(※道の駅関係者の休憩などは省く)

※12/18はガイド不在、1/1~1/5は正月休み、2/27~3/2はイベント開催(ひな祭り展示会)のため、カウント無し。

第3章 観光キャラバン

3-1.「沖縄観光&MICEコンテンツフェア」への出展

「沖縄観光&MICE コンテンツフェア」は、沖縄観光および MICE の新たな魅力を発信する機会として、沖縄県および一般財団法人沖縄観光コンベンションビューローが主催する「沖縄観光キックオフ・プロジェクト 2014」の一環として開催されたものである。

表 沖縄観光&MICE コンテンツフェア開催概要

名称	沖縄観光&MICE コンテンツフェア ～オールおきなわ大博覧会～
主催	沖縄県、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー (OCVB)
場所	大阪会場：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター ホールA 東京会場：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3F
日時	大阪会場：平成 26 年 1 月 28 日（火）13：00～17：00 東京会場：平成 26 年 1 月 29 日（水）13：00～17：00
出展事業数	大阪会場：60 事業者 東京会場：88 事業者
参加者数	大阪会場：450 人 東京会場：950 人
内容	沖縄観光事業者によるブース出展 ミニステージ、セミナールームにおけるプレゼンテーション、映像紹介、抽選会
対象	旅行社、航空会社、メディア関係者、イベント企画会社、MICE 関係事業者、PCO、MICE キーパーソン等
出展団体	北部広域市町村圏事務組合 やんばる観光連携推進事業
出展内容	平成 24 年度より、「やんばる」12 市町村広域連携の取組みをはじめている。「やんばる」の知名度の向上を図るべく、ポスター、パンフレット等を用いて、「やんばる」の名称、イメージの売り込みと、各地域の新たな取組みなど多様な資源を紹介する。今年度設置する情報サイトや拠点の紹介、3 月に行う（仮称）やんばるキャンペーンの PR も行う。
出展 PR	やんばると称する沖縄の北部。空、海、森の色、人の暮らしなど、沖縄の原風景が残ります。あなたの「やんばる」を感じてください！



大阪会場のやんばるブース(1ブース)

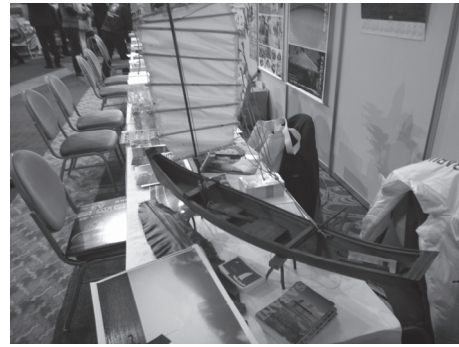


東京会場のやんばるブース(3ブース)

写真 出展状況



ブースを本物の植物で演出



サバニの模型展示



来訪者に「やんばる」を説明



やんばるのブルゾンを着用してのPR



名護市観光協会、今帰仁村観光協会、伊江村観光協会と連携したPR



ブースが連なっていることで、相互に来場者を紹介・誘導することができた



12市町村のパフレットおよび開催中のキャンペーンや催しなどをセットとして配布した



12市町村パフレットの配布

3-2. アンケート調査

ブース来訪者に対し、やんばるの認知度、PRすべき魅力等に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の回答をいただいた方々からは、回答記入後に質問を受けることも多く、パンフレットを配布するなどやんばるを知ってもらおうきっかけともなった。

大阪会場、東京会場を合わせて 131 件の回収となった。

図 観光キャラバンアンケート調査結果

[来訪者の業種]

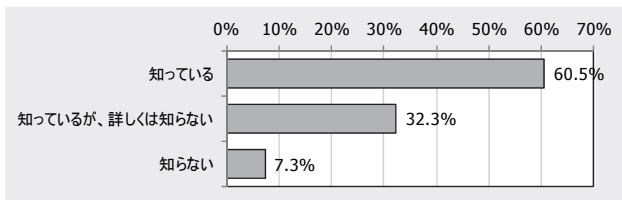
	大阪	東京	計	%
テレビ、ラジオ、新聞社等	5	11	16	12.2%
旅行関連の出版社	0	2	2	1.5%
その他出版社	0	3	3	2.3%
旅行代理店	14	14	28	21.4%
航空会社等	1	1	2	1.5%
行政団体	0	4	4	3.1%
観光協会等	4	4	8	6.1%
MICE関連機関	2	5	7	5.3%
その他	25	36	61	46.6%
無回答	0	0	0	0.0%
全体	51	80	131	100.0%

[今後の沖縄観光に求められるもの]

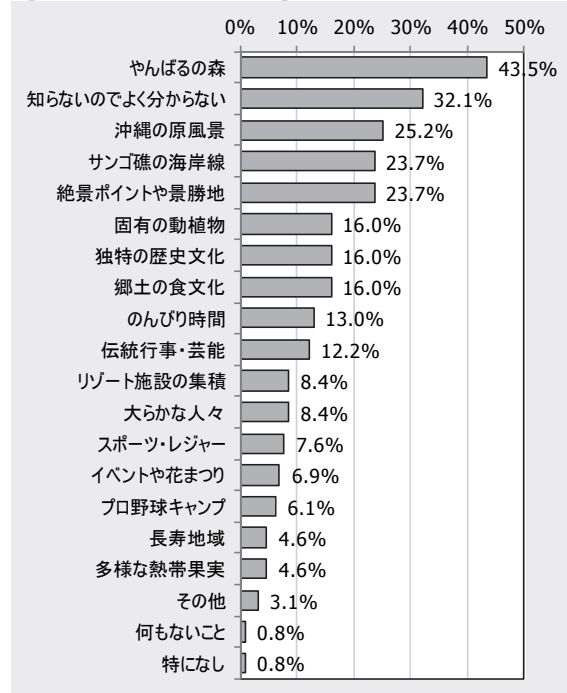
	大阪	東京	計	%
自然環境を活かした観光	20	41	61	46.6%
歴史・文化を活かした観光	13	19	32	24.4%
地域住民との交流	11	14	25	19.1%
リゾート空間の充実	9	8	17	13.0%
食文化の充実	6	11	17	13.0%
その他	2	5	7	5.3%
無回答	0	0	0	0.0%
複数回答全体	61	98	159	
全体	51	80	131	100.0%

[やんばるの認知度]

	大阪	東京	計	%
知っている	25	50	75	60.5%
知っているが、詳しくは知らない	23	17	40	32.3%
知らない	3	6	9	7.3%
全体	51	73	124	100%



[やんばるのPRすべき魅力]



第4章 アンケート調査

4-1. 地域住民の意識調査

①調査概要

『やんばるの産業まつりアンケート』

対象者: 第 29 回やんばるの産業まつり来場者

調査場所: 第 29 回やんばるの産業まつり会場(名護市 21 世紀の森体育館)

抽出方法: 会場に調査員を配置し、来場者を無作為に選出し回答(記入)を依頼した。

調査時期: 平成 25 年 10 月 12 日(土)、10 月 13 日(日)

回収実績: 531 票

②調査結果の概要

「やんばる」を示す地理的なイメージは、「名護市以北」が 48.0%、「国頭村、大宜味村、東村の 3 村」を加えると約 6 割となる。「金武・恩納以北」との回答が約 39.2%であった。

やんばるのイメージとしては、「森林・山」との回答が約 82.7%、「青い空・青い海」が約 49.2%、「長寿、オジー・オバー」が約 20.5%であった。県民はやんばるに対し、自然環境が豊かな場所とのイメージを持っており、海よりは緑が豊かな地域としてのイメージが強いことがうかがえる。

やんばるでやってみたい活動については、「キャンプ・バーベキュー」と「エコツアー」が挙げられた。自然を活かすこと、自然を大切にすること等の意見も多いことから、自然との触れ合いの場としてのニーズが高いことがわかる。

(県民アンケートから読み取れる傾向)

- ・ やんばるは名護から北の地域で、森林・山のイメージが強い!
- ・ 地元住民が今後やってみたいのはキャンプ・バーベキュー、エコツアー、ダイビングなど!
- ・ 若者は海のレジャー、子育て世代はキャンプ・バーベキュー、エコツアー、壮年以上はドライブ、観光地巡り
- ・ 沖縄本島中南部客はキャンプ・バーベキューやエコツアー、県外客は海のレジャーのニーズが高い
自然環境を守り今のままの魅力を活かして!もっとPRが必要!

<アンケート調査結果(抜粋)>

『やんばるは名護から北の地域で、森林・山のイメージが強い!』

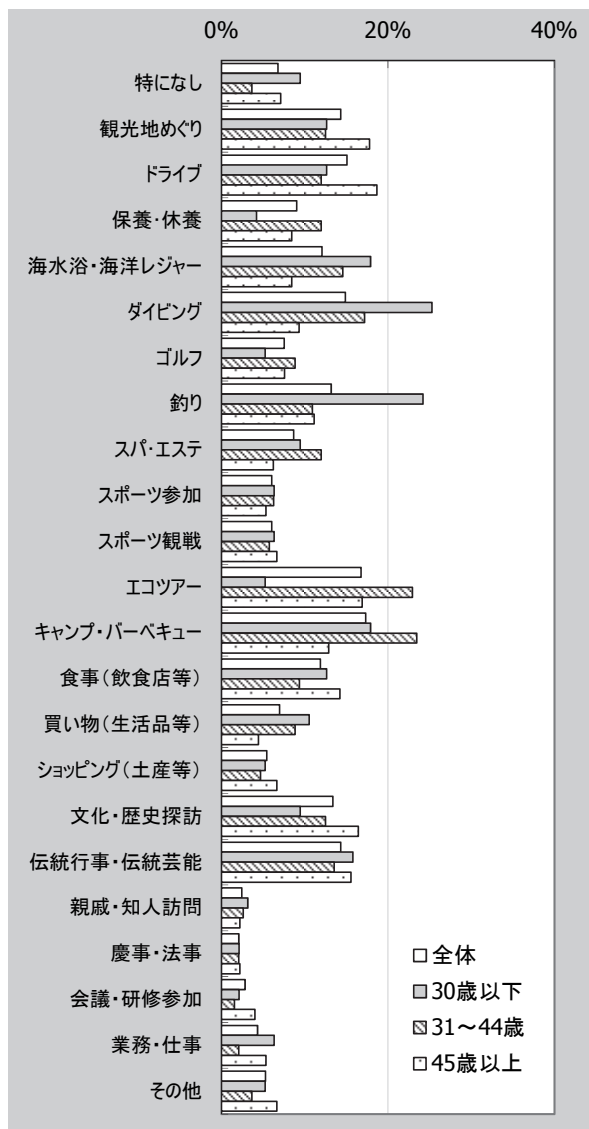
Q:「やんばる」を指す地域はどの範囲とお考えですか?

	全体		30歳以下		31~44歳		45歳以上	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
恩納村・金武町以北	205	39.2%	28	30.8%	63	33.0%	109	49.1%
名護市以北	251	48.0%	48	52.7%	106	55.5%	87	39.2%
国頭・大宜味・東3村	50	9.6%	11	12.1%	19	9.9%	17	7.7%
その他	6	1.1%	2	2.2%	1	0.5%	3	1.4%
無回答	11	2.1%	2	2.2%	2	1.0%	6	2.7%
合計	523	100.0%	91	100.0%	191	100.0%	222	100.0%

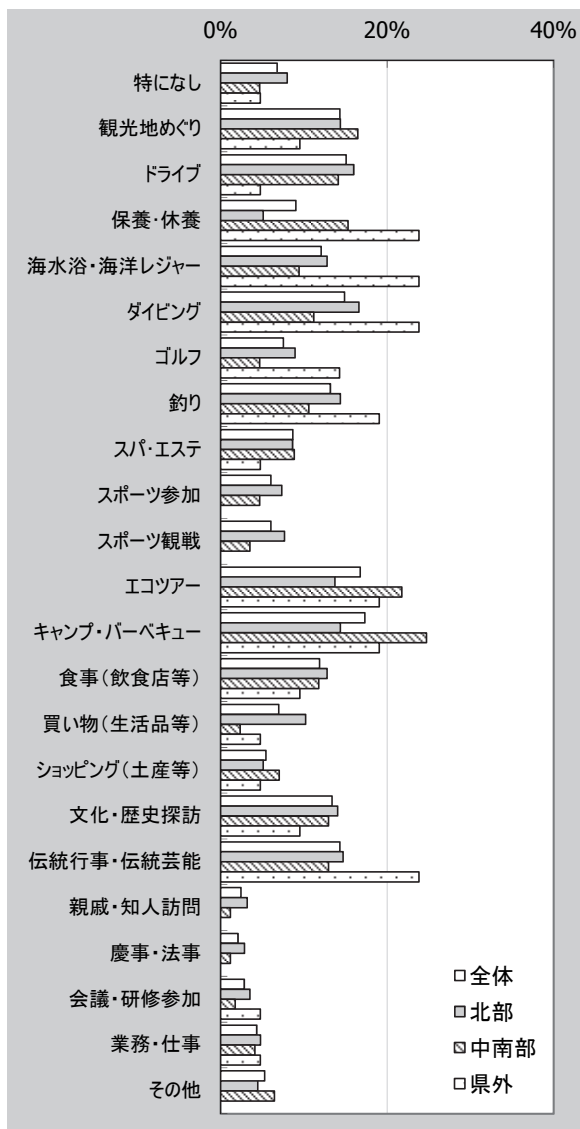
『沖縄本島中南部客はキャンプ・バーベキューやエコツアー、県外客は海のレジャーのニーズが高い』

Q:今後やってみたいこと、興味のあること

[年齢層クロス]



[住まい別クロス]



4-2. 観光客の意識調査

①調査概要

『観光客アンケート』

対象者: 観光客(県外観光客、県内観光客)

調査場所: 道の駅許田やんばる物産センター、那覇国際通りふんかテンプス館前

抽出方法: 各調査場所に調査員を配置し、来場者を無作為に選出し回答(記入)を依頼した。

調査時期: 平成 25 年 11 月 23 日(土)、11 月 27 日(水) ※平日と休日の2日間
平成 26 年 1 月 18 日(土)、1 月 22 日(水)

回収実績: 1,081 票(11 月調査時 575 票、1 月調査時 506 票)

②調査結果の概要

やんばるの認知度について、県外客は「場所も含めて知っている」との回答は約 16.6%であった。

観光客の約6割がやんばるを訪れており、それには美ら海水族館の存在が大きく貢献しているが、その後は北部地域で宿泊せずに他地域の宿泊施設へ戻っている状況である。

やんばるを訪れない理由として「遠い」「知らない」ということが挙げられることから、やんばる地域までの距離や時間など、具体的な情報提供を図ること等の取組みが課題である。

やんばるの主なイメージとしては、「森林・山」「青い空・青い海」「動植物」となっており、観光客は県民よりも緑をイメージしている傾向があり、やんばるを貴重な動植物の宝庫だとイメージしていることがわかる。

(観光客アンケートから読み取れる傾向)

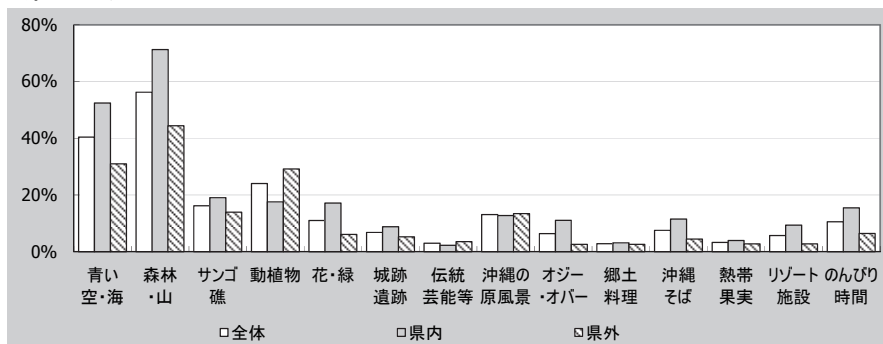
- ・ 県外客は 3 大都市圏のほか、九州、北海道からの客が多い
- ・ 交通手段は、県内客自家用車 73.8%、県外客レンタカー54.2%
- ・ 旅行計画で、県内客は知人・友人、県外客はインターネットや旅行会社を主な情報源としている
- ・ 旅行中、県外客はインターネット、知人・友人などの口コミを情報源としている
- ・ 県外客で「やんばる」を場所も含め知っているのは 16.6%、全く知らないのは 10.0%
- ・ 県民や訪問回数が多い県外客ほど、やんばるは「森林・山」のイメージが強くなる
- ・ 県外客の人気は美ら海水族館がダントツ、東海岸、離島が弱い
- ・ 全体的にドライブ、観光地めぐりのニーズが依然として高い。特徴的なのは県民はキャンプ・バーベキューのニーズが高く、県外客はダイビング、ショッピング(土産等)のニーズが高い

<アンケート調査結果(抜粋)>

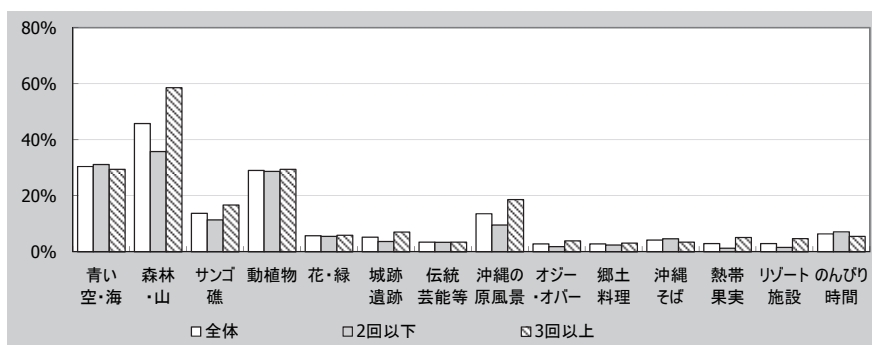
『県民や訪問回数が多い県外客ほど、やんばるは「森林・山」のイメージが強くなる』

Q:「やんばる」と聞いて、連想するものは何ですか？最も近いものをお答えください(3つまで選択)

<県内外別クロス>



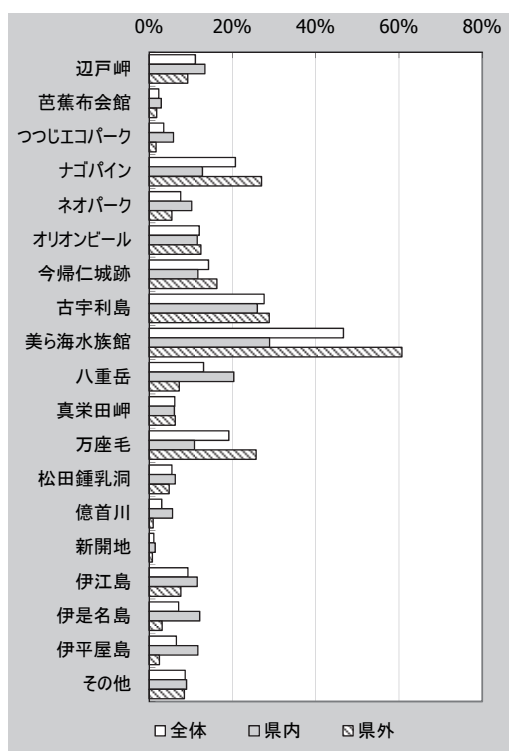
<県外×訪問回数クロス>



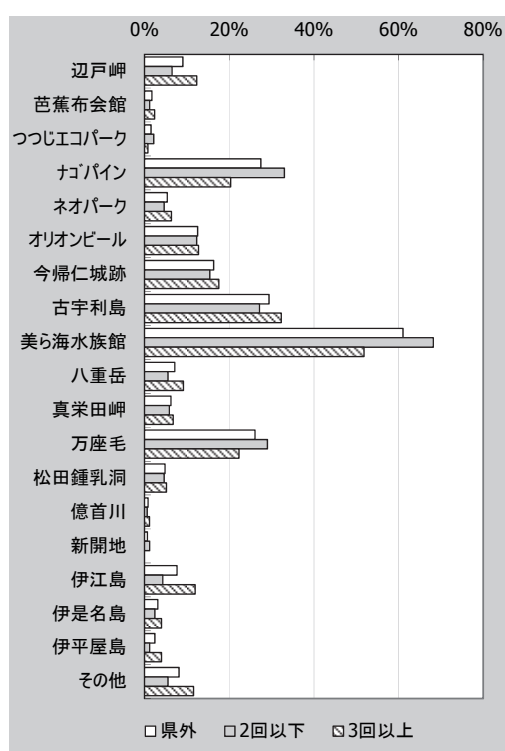
『県外客の人気は美ら海水族館がダントツ、東海岸、離島が弱い』

Q: 今回のご旅行で訪れた(訪れる予定)、または行ってみたい施設・場所をお答え下さい(該当するもの全てに○)

<県内外クロス>



<県外×来訪回数別クロス>

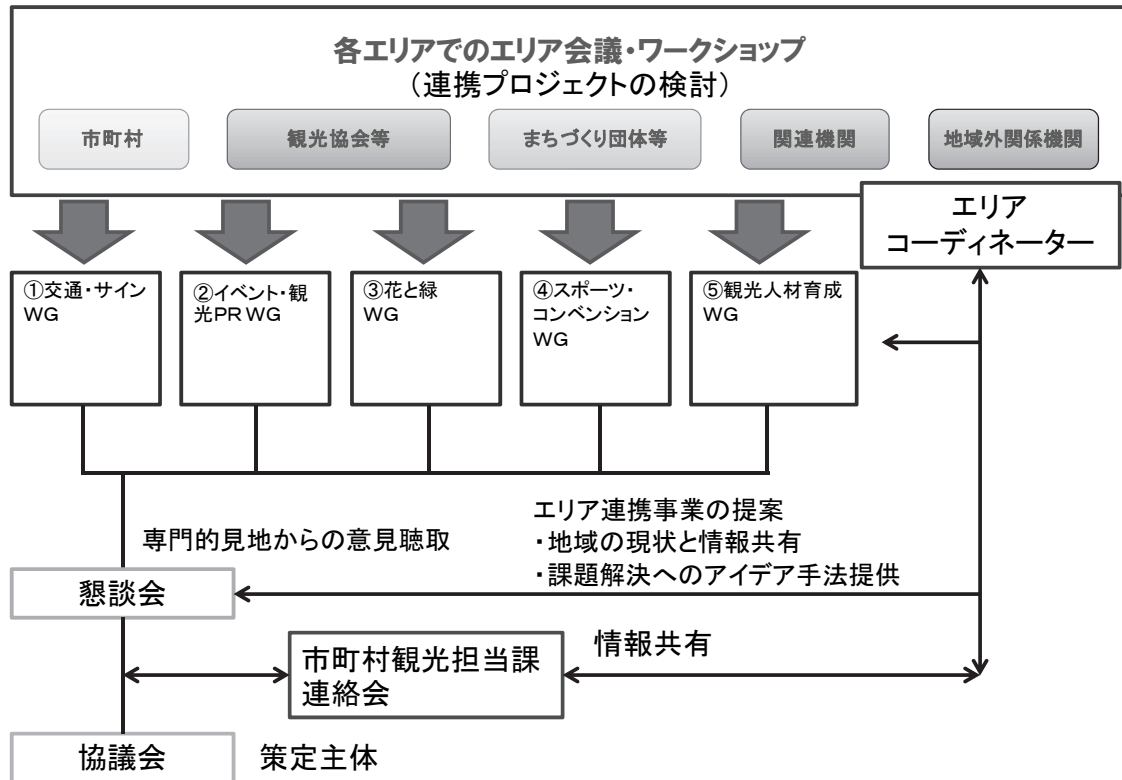


第5章 とりまとめ

5-1. WG・懇談会・連絡会・協議会の整理

平成 24 年度に設置した、WG、懇談会、協議会に加えて、平成 25 年度は各エリアでのワークショップと、市町村観光担当課連絡会を設けて、下記のような体制で実施した。

図 平成 25 年度 やんばる観光連携事業推進体制



平成 25 年度は、平成 24 年度事業で策定した「テーマ別取組みと施策の実施方針」をふまえて、平成 26 年度以降の事業実施に関する方向性を議論してきた。

各会議を通して、WGのテーマに沿った意見や総括的な意見など様々な意見が出されたが、広域連携事業としてこれらを包括的に進めていくため、事業内容を下記の4つに集約整理した。

各会議より出された様々な意見は、次年度以降、これらの事業内容の取組み課題としていく。

表 事業内容の集約・整理

事業内容の集約化	整理の視点(下記につながる意見を集約)
1 連携の仕組みづくり	連携体制づくり、広域連携による着地型観光づくりに関すること
2 情報集約・発信	情報集約・発信の拠点づくり(WEB 上の拠点、現地の拠点)に関すること
3 観光プロモーション	広域連携による観光プロモーションに関すること
4 ニーズ把握	やんばる観光のニーズ把握に関すること

表 各WGより集約したテーマ別取組課題と今後の展開

	H25(WG 意見の集約)	H26	H27～28
交通・サイン	<ul style="list-style-type: none"> ○周遊・滞在・消費を促すモデルルート紹介 ○レンタカー、バス、タクシーの情報集約 ○多言語情報の提供 ※元気プロジェクト「統合型やんばる観光推進事業」との連携とすみ分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2情報集約・発信」の取組みの中で推奨ルートと飲食店・観光スポットなどの情報、レンタカー、バス、タクシーなどの情報充実を図る。また、多言語マップを制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2情報集約・発信」の取組みの中で周遊・滞在・消費の促進を図るルートの多様化と、運用促進を図る。
イベント・観光PR	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の資源を活かした受地主導の体制づくり ○地元メディアや郷友会等のネットワーク活用 ○情報管理、ルールづくり ○市場動向調査の継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1連携の仕組みづくり」の取組みの中で受地主導型の連携プロジェクトのモデルづくりを進める。 ・「2情報集約・発信」の取組みの中で情報管理・ルールづくりを進める。 ・「3観光プロモーション」の取組みの中でメディア活用、郷友会とのネットワークづくりを進める。 ・「4ニーズ把握調査」の取組みの中で観光客の動態調査、クルーズ船、インバウンドなどのニーズ調査などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1連携の仕組みづくり」の取組みの中で連携プロジェクトのモデルの商品化と、自主的な連携プロジェクトの普及促進を図る。 ・「2情報集約・発信」の取組みの中で情報管理・ルールの定着化を図る。 ・「3観光プロモーション」の取組みの中でネットワーク拡大を図る。 ・「4ニーズ把握調査」の取組みの中で、周遊・滞在・消費の促進について検証を図る。
花と緑	<ul style="list-style-type: none"> ○開花状況、イベント情報などの集約・発信 ○花の名所、名木などツアーに活かす ○花植えなどに取り組む団体の情報共有 ○「花と緑の回廊」を意識した各拠点の整備 ※元気プロジェクト「春先へひとつ飛び やんばる春めぐり」との連携とすみ分け 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1連携の仕組みづくり」の取組みの中で花や緑をモニターツアー等に活かす。 ・「2情報集約・発信」の取組みの中で開花状況や花のイベント、花の名所、名木等の情報充実を図る。情報収集にあたり関係団体との協力体制を築く。 ・各地の観光拠点整備は、「やんばる回廊」等の考え方の中で広域的な位置付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3観光プロモーション」の取組みの中で花や緑を活かしたプロモーションを図る ・各地の観光拠点整備は、「やんばる回廊」等の考え方の中で広域的な位置付けを図る。
スポーツ・コンベンション	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ施設情報の集約 ○競技型スポーツ大会、合宿の誘致促進PR ○地域の経済効果につなげる ○閑散期の底上げ対策(4～6月、12月中旬) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「2情報集約・発信」の取組みの中でスポーツキャンプ地としてのPR情報充実を図る。 ・「3観光プロモーション」の取組みの中でスポーツキャンプ地としてのPRを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「3観光プロモーション」の取組みの中でスポーツキャンプ地としてのPRを図る。
観光人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○インバウンド人材の確保・育成 ○コーディネーター人材の育成 ○やんばる地域の深い知識を持った人材の育成 ○幼少期から観光産業への意識付け ※通訳案内士の活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1連携の仕組みづくり」の取組みの中で「(仮称)やんばる観光連携推進研究会」を設置し、コーディネーターの実践的な研修等を行う。また、観光人材育成に関する課題について大学等との協力体制を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「1連携の仕組みづくり」の取組みの中で「(仮称)やんばる観光連携推進研究会」を継続するとともに、大学等との協力体制により課題に対する取組みを行っていく。

＜テーマ別取り組みと施策の実施方針と今後の事業展開＞ 注：WS=ワークショップ WG=ワーキンググループ 議

連携テーマ	取組目標(案)	H25 実施方針 (H24 実施計画書)	H25 事業の実績・検討(要約)
基本的な連携施策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光素材・地域の情報収集 情報拠点の設置・人材配置 マナーゲティング調査 やんばる観光プロモーション 	<p>・観光素材・地域の情報収集</p> <p>・情報拠点の設置・人材配置</p> <p>・マナーゲティング調査</p> <p>・やんばる観光プロモーション</p>	<p>(実施事業)</p> <p>OWSを通じた情報共有の場づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 やんばる散策プロジェクト 2 エコ&スポーツプロジェクト 3 地域密着型 MICE 誘致プロジェクト 4 食の連携プロジェクト <p>OWEB サイト設置、情報拠点の設置</p> <p>観光フェア「やんばる」出展(東京・大阪)</p> <p>O県内外客アンケート調査</p>
①交通・サインに関する連携施策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 連携による新しい観光ドライブルートの創出 複数交通手段を活用した観光交通体系の確立 	<p>・ルート設定の明確化</p> <p>・ルートの魅力づくり検討</p> <p>・利用促進方策の検討</p> <p>・公共交通連携計画の作成</p> <p>・ノード(結節点)の魅力づくり</p>	<p>【交通・サインWGの意見集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> O周遊・滞在・消費を促すモデルルート紹介 Oレンタカー・バス・タクシーの情報集約 O多言語情報の提供 <p>※元氣プロジェクト「統合型やんばる観光推進事業」との連携とすみ分け</p>
②イベント・観光PRに関する連携施策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントの連携による「やんばる」ブランドイメージ形成 	<p>・連携テーマの設定</p> <p>・実行委員会の組織化</p> <p>・開催に向けた取り組み</p> <p>・情報の集約とリアルタイム情報の発信</p>	<p>【イベント・観光PRWGの意見集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> O地域の資源を活かした受地主導の体制づくり O地元メディアや郷友会等のネットワーク活用 O情報管理、ルールづくり O市場動向調査の継続
③花と緑に関する連携施策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 花と緑によるやんばる観光イメージアップ 花と緑の観光地の整備 	<p>・花と緑のマップ・カレンダー等の製作</p> <p>・花と緑の整備強化拠点の選定</p> <p>・「花と緑のネットワーク基本構想」の検討</p>	<p>【花と緑WGの意見集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> O開花状況、イベント情報などの集約・発信 O花の名所、名木などツアーに活かす O花畑などに取り組みむ団体の情報共有 O「花と緑の回廊」を意識した各拠点の整備 <p>※元氣プロジェクト「春先へひとつ飛び やんばる春めぐり」との連携とすみ分け</p>
④スポーツ・コンベンションに関する連携施策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> やんばるスポーツ・コンベンションエリアの確立 やんばるオリンピックエリアとしてのPR活動指し業づくり 	<p>・施設情報の集約化と共有化</p> <p>・情報の共有化方策</p> <p>・スポーツコンベンションエリアとしてのPR活動</p>	<p>【スポーツ・コンベンションWGの意見集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> Oスポーツ施設情報の集約 O競技型スポーツ大会、合宿の誘致促進PR O地域の経済効果につなげる O開散期の底上げ対策(4~6月、12月中旬)
⑤観光人材育成に関する連携施策	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> やんばる観光連携推進のための人材配置・研修・育成 	<p>・地域コーディネーターの配置とネットワーク会議の開催</p> <p>・体験型観光人材の育成・連携方針の検討</p> <p>・大学と連携した観光人材育成カリキュラム検討</p>	<p>【観光人材育成WGの意見集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> Oインバウンド人材の確保・育成 Oコーディネーター人材の育成 Oやんばる地域の深い知識を持った人材育成 O幼少期からの観光産業への意識付け <p>※通訳案内士の活用検討</p>

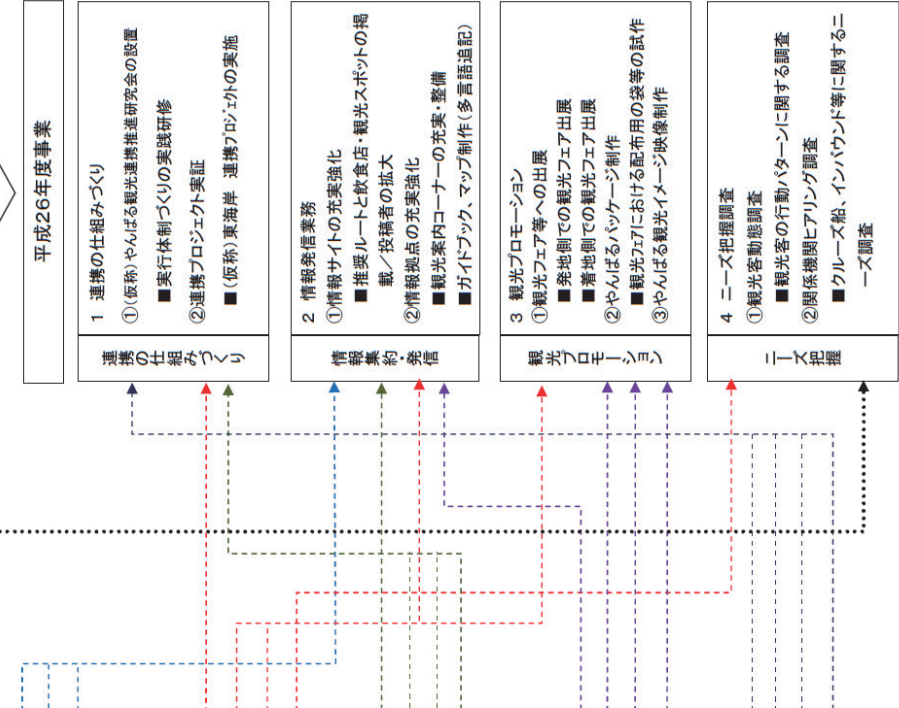
【懇談会意見集約】

- OWEB サイトの充実、情報の更新・管理
- Oインバウンド、本部港クルーズ客対応
- O圏域での共通テーマ、共通化と差別化
- O観光客の行動パターン把握
- Oターゲット絞り込み、地域と需要のマッチング
- Oアンケート調査の継続
- Oワンストップ機能と物産拠点との連携
- O意見の整理(優先度、中長期、公共・民間等)

【協議会意見集約】

- O那覇空港への情報発信検討
- O「森林・山」のイメージの活用
- O工事や災害時の情報、空港までの所要時間等
- O滞在を1泊増やすことが必要
- O施設型観光地の集客性を活かし、本物の自然をPR
- O所要時間別周遊ガイド作成
- O機内パンフレットの検討

4つの事業内容に集約し、それぞれの取組課題としていく



5-2. 今後の推進方策と事業展開の方向性

(1) 実証事業の年次計画

平成 24 年度より取組んできた本事業は、平成 25 年度には、一部実証事業を進めながら、並行してWG、懇談会、協議会、市町村観光担当課連絡会、エリアワークショップで議論を続けてきた。

これをふまえ、平成 26 年度からは先にあげた4つの事業内容に集約し、実践的な事業を中心に進めていく。

なお、取組みにあたっては、ワーキンググループ、懇談会、協議会、ワークショップなどであげられた意見を取組み課題とし、連携の仕組みづくりの中で「(仮称)やんばる観光連携推進研究会」(以下、「研究会」という)を設置し、内容を充実させていく。

図 今後の事業展開

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27～28 年度
WG、懇談会、協議	WG、懇談会、協議会、連絡会、ワークショップ	協議会(副長会)	協議会
○課題の抽出 ・連携の場 ・情報共有 ・情報発信 ・ニーズ把握 ○目標 連携により・・・ ・滞在促進 ・消費拡大 ○将来像 やんばるの観光の多様性と個性がもつ奥深い魅力がつながり広がる観光地へ	1連携の仕組みづくり ・コーディネーター配置 ・ワークショップの開催 ・連携プロジェクトの検討	1連携の仕組みづくり ●(仮称)やんばる観光連携推進研究会の設置 ・実行体制づくりの実践研修 ●連携プロジェクト実証 ・(仮称)東海岸連携プロジェクト実施(モニターツアー)	1連携体制検討 (案)研究会継続 (案)事務局機能の検討 (案)連携継続 (案)商品化検討
	2情報集約・発信 ・情報サイト制作 ・情報拠点の設置	2情報集約・発信 ●情報サイトの充実強化 ・推奨ルートと飲食店・観光スポットの掲載/投稿者の拡大 ●情報拠点の充実強化 ・観光案内コーナーの充実・整備 ・ガイドブック、マップ制作(多言語追記)	2情報発信 (案)情報充実 (案)情報拠点の継続・充実
	3観光プロモーション ・観光フェア出展 「やんばる」全体の売込	3観光プロモーション ●観光フェア等への出展 ・発地側での観光フェア出展 ・着地側での観光フェア出展 ●やんばるパッケージ制作 ・観光フェアにおける配布用の袋等の試作 ●プロモーション用やんばる観光イメージ映像制作	3観光プロモーション (案)広域連携によるPR (案)観光土産品販売
	4ニーズ把握 ・「やんばる」のイメージやニーズ把握	4ニーズ把握 ●観光客動態調査 ・観光客の行動パターンに関する調査 ●関係機関ヒアリング調査 ・クルーズ船、インバウンド等に関するニーズ調査	4ニーズ把握 (案)アンケート調査継続

(2)事業展開の方向性

①連携の仕組みづくりの展開方向

表 H25 の成果と今後の課題

H25 の成果	今後の課題
<p>(エリアコーディネーターの配置、ワークショップの開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やんばる地域の観光関係者が集まり、顔合わせ、情報交換、課題の共有ができる場が作られた。 ・連携プロジェクトの検討をとおして、観光素材やアイデアが共有された。 <p>〈連携プロジェクトの4つのテーマ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○やんばる散策プロジェクト ○地域密着型 MICE 誘致プロジェクト ○エコ&スポーツプロジェクト ○食の連携プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・各地域で連携のキーマンとなりそうな人材が見えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実行体制を作り、具体的な連携プロジェクトの実践が必要である。 ・連携プロジェクトにより成功事例のモデルを作り、自主的な連携の動きを促していく必要がある。
<p>(情報収集・発信の仕組みづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から現地の旬な情報、地域に密着した情報を収集し、発信される仕組みができた。 ・参加型のキャンペーンで、参加者相互、地域と観光客双方向のコミュニケーションの仕組みが実証された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投稿者を地域の団体などに拡大して情報の充実を図る必要がある。 ・イベントとの連携で相乗効果を上げる方策も考えられる。 <p>⇒今後の情報発信の事業展開に活かしていく。</p>

②情報発信の展開方向

表 H25 の成果と今後の課題

H25 の成果	今後の課題
<p>(情報サイトの制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや地域の旬な情報がアップされる動きのあるサイトが作られた。 ・地域と観光客双方向のコミュニケーションの仕組みが作られた。 ・新たなイベント、地域のイベントなどが広報できる場が作られた。 ・閲覧者がその場(サイト内)で予約できる仕組みが作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本格運用に向けて広報などでアクセス数を増やす必要がある。 ・投稿に対する閲覧を増やすよう、地元関係機関とのリンクやメディアを活用した広報の協力体制を築く必要がある。 ・ターゲットを絞り込んだ効果的な広報が必要である。 ・観光客のニーズに応じ、推奨コースや飲食、

	土産などの情報を組み合わせて周遊・滞在・消費を促す情報の掲載が必要である。
<p>(情報拠点の設置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やんばるの観光情報が集約された場を設けることで、効率的に発信できる仕組みが作られた。 ・対面式とすることで着地側で観光客の多様なニーズに丁寧に応えられる仕組みが作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の観光施設やメディアを活用した広報による観光客への周知、各地の観光地との連携により認知度を高め、利用を促進する必要がある。 ・観光客のニーズに応じ、推奨コースや飲食、土産などの情報を組み合わせて周遊・滞在・消費を促す情報提供が必要である。 ・那覇近辺では、レンタカー利用者に偏らないよう、設置場所を検討する必要がある。

③観光プロモーションの展開方向

表 H25 の成果と今後の課題

H25 の成果	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・観光フェア等では、これまで各地域が単体で別々に出展していたが、やんばるを一つとして集約し、発信できる仕組みが作られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携プロジェクトなどの商品化等を見据えて、具体的な商品のセールスを行う方向で出展を検討する。 ・パンフレットやお土産などを配布する際の袋など、やんばるの統一感のあるパッケージデザインの制作など、やんばるを売り込む効果的な方策を考える必要がある。

④ニーズ把握の展開方向

表 H25 の成果と今後の課題

H25 の成果	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・「やんばる」のイメージやニーズに関して、県民と観光客、ビギナーとリピーターの傾向を把握できた。 ・観光客にとっては、やんばる認知度はまだまだ低いですが、情報発信することで周遊・滞在・消費を促すことの可能性が示唆された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・やんばるでの観光客の行動パターンを把握し、周遊・滞在・消費を促進するための戦略に活かす必要がある。 ・沖縄に住んでいる人、来ている人を対象としたアンケートのみならず、全国的な市場を対象とする必要がある。 ・インバウンドに関する動向を把握する必要がある。

5-3. 将来目標と事業展開イメージ

① 将来目標について

事業推進にあたっては、将来目標を掲げこれに向けた施策としていくことが必要である。

平成 24 年度事業において、「やんばる観光連携の将来イメージ(案)」及び各WGの取組み目標を設定している。

図 「やんばる観光連携の将来イメージ(案)」(平成 24 年度)

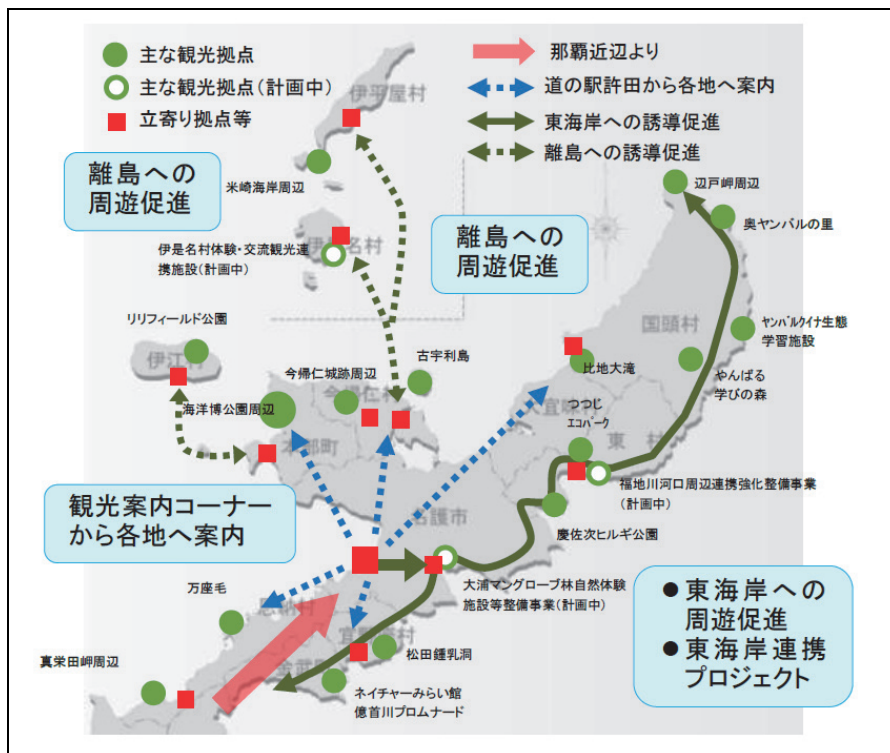
《やんばる観光連携の将来像のイメージ(案)》

「やんばる観光の多様性と個性がもつ奥深い魅力がつながり広がる観光地へ」

(具体的なやんばる観光連携の将来像)

- ・ワンストップの窓口があり、やんばる全体の新鮮な情報が集まっている
- ・市町村の枠を超え、相互の情報交換、受入の協力体制ができている
- ・観光地の資質が向上し、ファン層やリピーターが増加している
- ・やんばる地域での滞在が1泊長くなり、地域内での消費が増えている
- ・各観光地までわかりやすくスムーズに移動でき、周遊が促進されている
- ・リゾート環境を活かして地域全体がスポーツ・キャンプの拠点となっている
- ・多様な地域資源の魅力が「やんばる」の名のもとにPRされている
- ・地域全体が花や緑で彩られ、年中どこかで花のイベントが開催されている
- ・地域の観光施設やガイドとして地域の人材が活躍している

図 事業展開イメージ



②推進体制について

本事業の最終的な目標は、やんばる地域の持続可能な連携体制をつくることにある。

これまで、5つのテーマによるWGや、懇談会、協議会をもって進めてきた。

また、平成 25 年度にはやんばるを3つのエリアに区分し、各エリアコーディネーターを中心にワークショップを行ってきており、やんばる広域連携に向けて機運が高まりつつある。

現在のモチベーションを保ちつつ、一つ前に進むため何らかの連携体制を形づくり、集会や話し合いを継続させていく必要がある。

「(仮称)やんばる観光連携推進研究会」の設置は、共同で地域観光の課題等について研究を進めながら徐々に核となる事務局を整えていくことが考えられる。

将来的には、北部広域の観光連携のワンストップ窓口となる組織体制をつくり、マーケティングやプロモーション、企画立案、コンシェルジュなどの役割を担っていくことが目指される。

図 観光を活かしたまちづくりの中核的推進機能



出典：観光を活かしたまちづくりを推進する体制づくり(平成 21 年 3 月 観光庁)

5-4. 平成26年度の業務内容(案)

<p>1 連携の仕組みづくり</p> <p>①(仮称)やんばる観光連携推進研究会の設置(市町村観光担当課長等、観光協会等)</p> <ul style="list-style-type: none">■実行体制づくりの実践研修 <p>②連携プロジェクト実証</p> <ul style="list-style-type: none">■(仮称)東海岸連携プロジェクトの実施(モニターツアー)	
<p>2 情報発信業務</p> <p>①情報サイトの充実強化</p> <ul style="list-style-type: none">■推奨ルートと飲食店・観光スポットの掲載/投稿者の拡大 <p>②情報拠点の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none">■観光案内コーナーの充実強化■ガイドブック、マップ制作(多言語追記)	
<p>3 観光プロモーション</p> <p>①観光フェア等への出展</p> <ul style="list-style-type: none">■発地側での観光フェア出展(沖縄観光&MICEコンテンツフェア/東京・大阪)■着地側での観光フェア出展(やんばるの産業まつり/那覇空港ウェルカムホール) <p>②やんばるパッケージ制作</p> <ul style="list-style-type: none">■観光フェアにおける配布用の袋等の試作 <p>③プロモーション用やんばる観光イメージ映像制作</p>	
<p>4 ニーズ把握調査</p> <p>①観光客動態調査</p> <ul style="list-style-type: none">■観光客の行動パターンに関する調査 <p>②関係機関ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none">■クルーズ船、インバウンド等に関するニーズ調査	

平成25年度 委員名簿

やんばる観光連携推進事業 協議会 委員名簿

座長	親川 敬	名護市	副市長
	小川 剛男	国頭村	副村長
	山城 清臣	大宜味村	副村長
	金城 紀昭	東村	副村長
	大城 清紀	今帰仁村	副村長
	平良 武康	本部町	副町長
	池宮城 秀光	恩納村	副村長
	岸本 宏和	宜野座村	副村長
	伊芸 達博	金武町	副町長
	名城 政英	伊江村	副村長
	伊礼 清	伊平屋村	副村長
	上里 政豊	伊是名村	副村長

やんばる観光連携推進事業 懇談会 委員名簿

座長	平敷 徹男	国立大学法人琉球大学	名誉教授
	新垣 裕治	公立大学法人名桜大学	教授
	大谷 健太郎	公立大学法人名桜大学	准教授
	伊良皆 啓	公立大学法人名桜大学	准教授
	内間 仁春	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	常務理事
	上江洲 富佐子	北部地区連合婦人会	会長
	花城 良廣	一般財団法人沖縄美ら島財団	常務理事
	白石 武博	一般社団法人沖縄県レンタカー協会	会長
	川添 博明	おきなわ北部観光推進協議会	会長
	武田 寛枝	株式会社リクルートライフスタイル沖縄	代表取締役社長
	丸山 裕司	株式会社JTB沖縄	地域交流ビジネスカンパニー長
	野甫 聡	北部広域市町村圏事務組合	幹事長
	小野 協子	沖縄総合事務局運輸部	企画室長
	前田 光幸	沖縄県文化観光スポーツ部	統括監

やんばる観光連携推進事業ワーキンググループ 名簿

交通・サインワーキンググループ

座長	大谷 健太郎	公立大学法人名桜大学	准教授
	伊佐 清志	一般社団法人沖縄県レンタカー協会	専務理事
	慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事
	湖城 秀實	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	会長
	宮城 敦	株式会社北部観光バス	営業管理部次長
	中村 靖	沖縄ツーリスト株式会社 OTS レンタカー	部長
	砂川 聡	沖縄総合事務局北部国道事務所	副所長
	中村 栄秀	沖縄県北部土木事務所	技術総括

イベント・観光 PR ワーキンググループ

座長	伊良皆 啓	公立大学法人名桜大学	准教授
	港川 實登	やんばる交流推進連絡協議会	理事
	比嘉 雅貴	やんばる物産センター株式会社	常務取締役
	與古田 悦子	やんばる女性農業者の会	会長
	山川 安雄	やんばる国頭の森を守り活かす連絡協議会	副会長
	仲間 赴人	宜野座村観光推進協議会	事務局長
	小宮 啓明	株式会社 JTB 沖縄	交流事業部営業開発課
	仲本 博重	沖縄ツーリスト株式会社 グローバル経営戦略室	地域資源創出課 課長
	安里 考夫	本部半島ジオパーク推進協議会	事務局長

花と緑ワーキンググループ

座長	林 優子	公立大学法人名桜大学	准教授
	西銘 宜孝	一般財団法人沖縄美ら島財団	経営企画課長
	平良 一男	一般社団法人ふるさと環境企画	理事
	深田 友樹英	やんばる風景花街道パートナーシップ	
	島袋 陽平	株式会社近畿日本ツーリスト沖縄	インバウンド事業部商品開発課
	仲松 徳修	沖縄総合事務局北部国道事務所	調査課長
	新垣 義秀	沖縄県北部土木事務所	調査計画スタッフ 主幹

スポーツ・コンベンションワーキンググループ

座長	小賦 肇	公立大学法人名桜大学	准教授
	喜久里 忍	スポーツ・ツーリズム沖縄	代表
	森 兵次	特定非営利活動法人ツール・ド・おきなわ協会	副理事長
	新城 光	特定非営利活動法人名護市体育協会	事務局長
	儀間 権	国頭郡体育協会	理事長
	饒波 正仁	おきなわ北部観光推進協議会	事務局長
	比嘉 重史	公益財団法人名護市観光協会	事務局長

観光人材育成ワーキンググループ

座長	新垣 裕治	公立大学法人名桜大学	教授
	桃原 博信	おきなわ北部観光推進協議会	副会長
	坂下 宙子	屋我地エコツアーネット	代表
	坂本 公敏	オンナゴリゾートヴィレッジ	村長
	渡具知 豊	有限会社渡具知	代表

やんばる観光連携推進事業 市町村観光担当課連絡会 名簿

金城 進	名護市	商工観光課	課長
平川 洋一郎	名護市	商工観光課	係長
知花 靖	国頭村	企画商工観光課	課長
前田 浩也	国頭村	企画商工観光課	係長
山城 均	大宜味村	企画観光課	課長
藤田 元也	大宜味村	企画観光課	係長
金城 幸人	東村	企画観光課	課長
仲嶺 真文	東村	企画観光課	課長補佐
小那覇 安隆	今帰仁村	経済課	課長
立津 剛志	今帰仁村	経済課	商工観光補佐兼係長
宮城 健	本部町	商工観光課	課長
謝花 裕作	本部町	商工観光課	班長
長浜 保治	恩納村	商工観光課	課長
野原 みちよ	恩納村	商工観光課	係長
山城 智	宜野座村	産業振興課	課長
仲間 出	宜野座村	産業振興課	係長
池原 均	金武町	産業振興課	課長
伊芸 勲	金武町	産業振興課	主幹
東江 民雄	伊江村	商工観光課	課長
松本 壮	伊江村	商工観光課	課長補佐
前田 敦弘	伊平屋村	商工観光課	課長
上江洲 清彦	伊平屋村	商工観光課	係長
東江 清和	伊是名村	観光振興課	課長
東江 隆路	伊是名村	観光振興課	係長